

阿武海岸：マグマが創り出した風景

モドロ岬は、萩ではその特徴的な水玉模様の岩石でよく知られている。約 1 億年前に萩ジオパーク内で最大規模の火山噴火が起きたことでできた。丸い「点」は、2 種類の異なるマグマがゆっくりと混ざり合い、一つの巨大な塊に固まってできたものだ。現在では、シークルーズやカヤックなどで、岩の形成を間近で見ることができる。

奥阿武村：小さな火山からの贈り物

千年以上前から果物や野菜、米などがこの山間部で栽培されてきた。この肥沃な牧草地は、どんな作物にも適していると言われている。萩の人々が何世紀にもわたって肥沃な土壌を育んできたのは、この地に点在する小さな火山の存在があったからである。「龍が通った道」は、奥阿武を流れる川の谷間に沿って長く伸びる柱状節理の道。江戸時代（1603～1867 年）の長州藩の「どんぶり」であったこの地域を形成した火山活動の中で、最もよく知られているものだ。

徳佐盆地：肥沃な大地と消えた湖

沿岸部から高い山々へ向かって車で 1 時間ほど走ると、見えてくるのが徳佐盆地だ。徳佐はかつて、周囲を取り囲む火山の噴火によってできた湖の底だった。その噴火がやがて湖を変容させ、阿武川を生み出しました。徳佐の湖がなければ、川の三角州は形成されず、萩の町がそこにできることもなかっただろう。盆地の肥沃な土地は、湖底に堆積した養分の賜物である。そのおかげで、徳佐の農民は何世紀にもわたって山口の人々に食料を提供することができたのだ。